

信仰という言葉は多くの場合、宗教的に用いられます。キリスト教に限らず、神さまやその宗教の教義などを信じることを指します。仏教では信心ということが多いようです。

旧約聖書には、「信仰の父」と呼ばれる人が出てきます。それはアブラハムです。創世記 15 章にはアブラハムが神さまから約束を与えられた物語があります。アブラハムはその約束通りに行動します。その神さまに対する応答を「信仰」と呼ぶのです。

新約聖書では、信仰の対象はイエス・キリストになっていきます。つまり神さまがわたしたちのために、イエス様を遣わされたことを信じるということです。イエス様を通して神さまはご自身を啓示されているのですから、イエス様への信仰は神さまへの信仰へとつながっていくのです。

聖書で信仰をあらわす「ピスティス」という言葉には、所信(信じている事柄)や信頼、従順というニュアンスも含まれます。イエス様を受け入れ、信頼し、すべてを委ねて歩んでいくことが、信仰者としての生き方です。

それでは聖公会では、信仰をどのように捉えているのでしょうか。教会問答(祈禱書 258~267 ページ)にはこのようにあります。まず「教会の信仰を言い表しているのは何ですか」という問いに対し、「使徒信経とニケヤ信経です」と答えがあります。使徒信経は祈禱書 30 ページに、ニケヤ信経は祈禱書 167 ページにあります。また「教会の信仰は何に基づいていますか」には「神のみ言葉とみ業に基づいています。それは聖書に示されています」と答えます。

信経を唱え、聖書に聞きながら、イエス様に信頼する。それがわたしたちに求められている信仰なのです。

次回は「信仰義認」です。お楽しみに。



「カファルナウムで中風の人を癒すイエス」
イコン画

イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。

(マルコによる福音書 2 章 5 節)

